

第5編 学校・文化施設

第1章 猿橋幼稚園

戦前には関屋に幼稚園があったという。(仁科喬夫氏談)

戦後、昭和28年公民館の建物を利用して猿橋幼稚園が開設され、後に猿橋小学校が伊良原に移転した跡地に新築移転した。



図5101 卒園記念写真 第1回卒園（公民館）、



猿橋町の公民館で初めて子供たちの保育が始まった。(写真は全園児)

図5102 第4回卒園（小柳新園舎）



第4回 卒園式

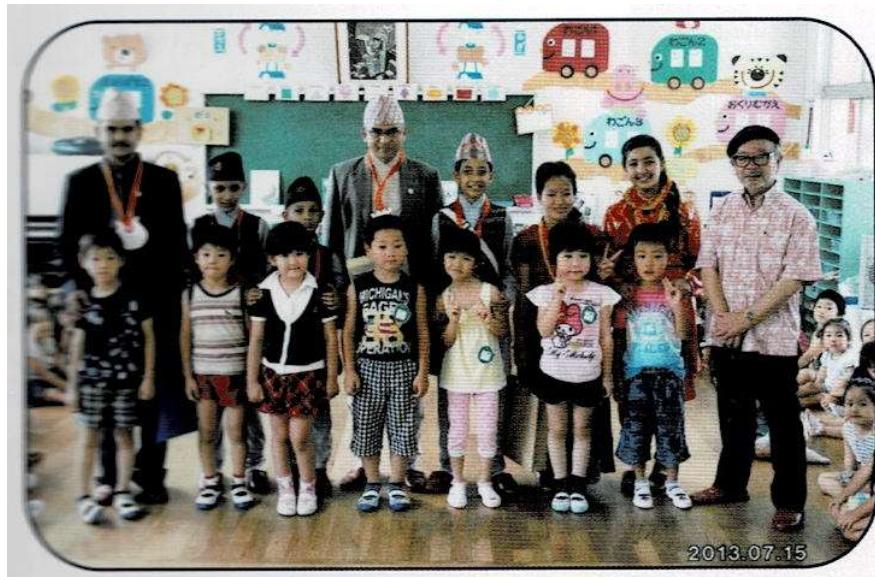


図5103

海外交流にも尽力した仁科義民園長。
(右端)



図5104

閉園行事に参加した猿橋幼稚園出身で俳優として活躍している。
生津徹氏（左）
志村史人氏（右）



図5105

閉園となった猿橋幼稚園の園舎。

猿橋史談会も何回か利用させていただいた。

第2章 猿橋小学校

1) 沿革

猿橋小学校は校歌にあるように明治7年（1874）に開設された。大月市史によれば明治26年（1893）まで約20年間、心月寺本堂を仮用し、その後、関屋の奈良五郎右衛門宅の一部（間口8間半、奥行5間の二階建）を使用していた。この「奈良五郎右衛門宅」はその後の調査で猿橋143番地であることがわかった。

図5201 校舎の移り変わり



その後、高等科のみが小柳町の現在の警察派出所辺りに移転し、更に明治37年小柳の地に本格的な校舎を建て、尋常科・高等科ともに移転した。昭和37年春現在の伊良原校舎に移転した。

沿革

- 明治19年（1886）：北都留郡唯一の「北都留郡高等小学校」を設置
- 明治20年（1887）5月：小沢小学校・藤崎小学校を合わせ大原尋常小学校となった。
(小沢に分校、藤崎には出張所)
- 明治25年（1892）：大原・賑岡・富浜・七保の4ヶ村組合で猿橋高等小学校を設立

- ・明治26年（1893）：小沢・藤崎・小篠小学校が独立
猿橋校舎はこれまで心月寺から（閑屋）奈良五郎右衛門居宅へ移転仮用
- ・明治29年（1896）：小柳町に校舎新築（警察派出所の辺り）高等小学校が移転
- ・明治36年（1903）：校舎狭隘のため、小倉東光寺に分教室を設置
- ・明治37年（1904）：校舎新築（工費468円）
- ・明治41年（1908）：高等科を併設、猿橋尋常高等小学校に改称
- ・明治42年（1909）：校舎増築
- ・大正12年（1923）：校舎狭隘につき二部授業開始（翌年解消）
- ・昭和4年（1929）：御真影奉安所寄附され奉遷式挙行
- ・昭和5年（1930）：学制改革「4年制から6年制」に
- ・昭和6年（1931）：北都留郡少年野球大会で優勝
- ・昭和8年（1934）：校旗制定
- ・昭和10年（1935）：「学校経営要覧」発行、干部印刷
- ・昭和30年（1955）：開校80周年記念で図書館新築
- ・昭和34年（1959）：L字形校舎を本館と直列に
- ・昭和37年（1962）：伊良原へ新築移転

2) 心月寺時代

心月寺にでは幕末から住職の英維明が寺子屋を開いていた。
明治4年の学制発布により、明治7年11月13日、ここに猿橋学校が創設された。同時に小沢学校が長応寺、藤崎学校が妙楽寺に開設された。
当時は授業料が必要であり、1年は5銭、2年は8銭、3年は12銭、4年は16銭が徴収されたと記録にある。

図5202 心月寺時代の卒業写真か



心月寺での授業は13年間に及び、明治26年8月1日、閑屋に移転した。

3) 関屋時代

心月寺から移った先は、猿橋143番地の奈良五郎右衛門宅と史料にある。

明治時代の公図の関屋近辺を見ると、143番地は戦後、米等の配給所があった永田商店の裏の方角である。中央線開通により分断されたが、その中央線のガードがあつたところの左側一帯。公図にはこの校舎に入るためと思われる道も見える。

図5203 「関屋」校舎の位置



一杉進氏が、この土地について登記謄本で調べたところ、次のように登記されていた。

- ・建物は木造板葺3階建で1階・2階・3階とも34坪、合計建坪102坪とある。

他に建坪1.11坪の便所。

- ・登記には明治31年12月30日、奈良繁太郎が同町橋本藤太郎より110円にて取得し、所有権を登記したとある。

奈良繁太郎はおそらく奈良五郎右衛門の後継者だろうが、購入・登記した時期と心月寺から移転した（明治26年）と次期が合わない。

この期間は借地だったのだろうか？

4) 小柳時代（1）

関屋校舎が手狭になったためか、中央線の敷設計画で立退させざるを得ないことがわかったのか、明治29年小柳の地に移転している。

この場所の詳細はわかっていないが、現在の警察派出所あたりが、大原村役場になったこともあった公有地だったので、この近辺と想像される。

図5204
明治33年の卒業証書

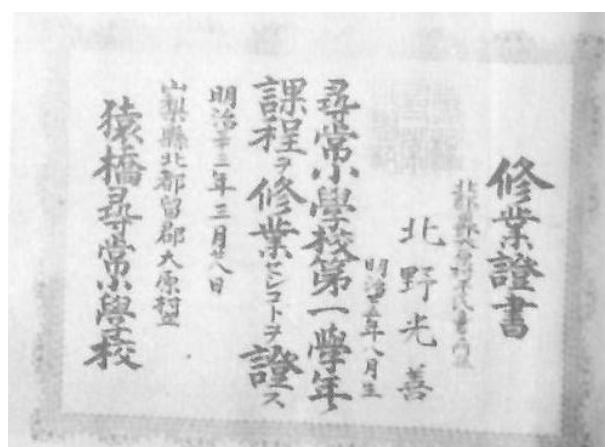


図5205 小柳（警察派出所近辺）時代の記念写真（高等科）



5) 小柳時代（2）

この小柳校舎も手狭になり、明治36年には小倉の東光寺に分教室を設置するなどしていたが、明治37年（1904）工費468円を投じて同じ小柳地内に校舎を新築した。（以降昭和後期まで校舎があった土地である）。

明治41年には高等科を併設、猿橋尋常高等小学校に改称した。

図5206 初期の校舎と高等科の軍事教練風景

網野良男氏 提供



明治42年に校舎増築をしているが、まず尋常科5・6年生と高等科1・2年生が入り、12月に低学年も新校舎に入った。この年、校内に猿橋農商業補習学校が併設された。高等科に進まないものに対する職業教育の類か。このためすぐ手狭になり、児童数が1000人を越えた大正10年頃には二部授業開始も行われている。

図5207 L字型校舎（本館はまだ平屋）



図5208 大正～昭和初期の児童数

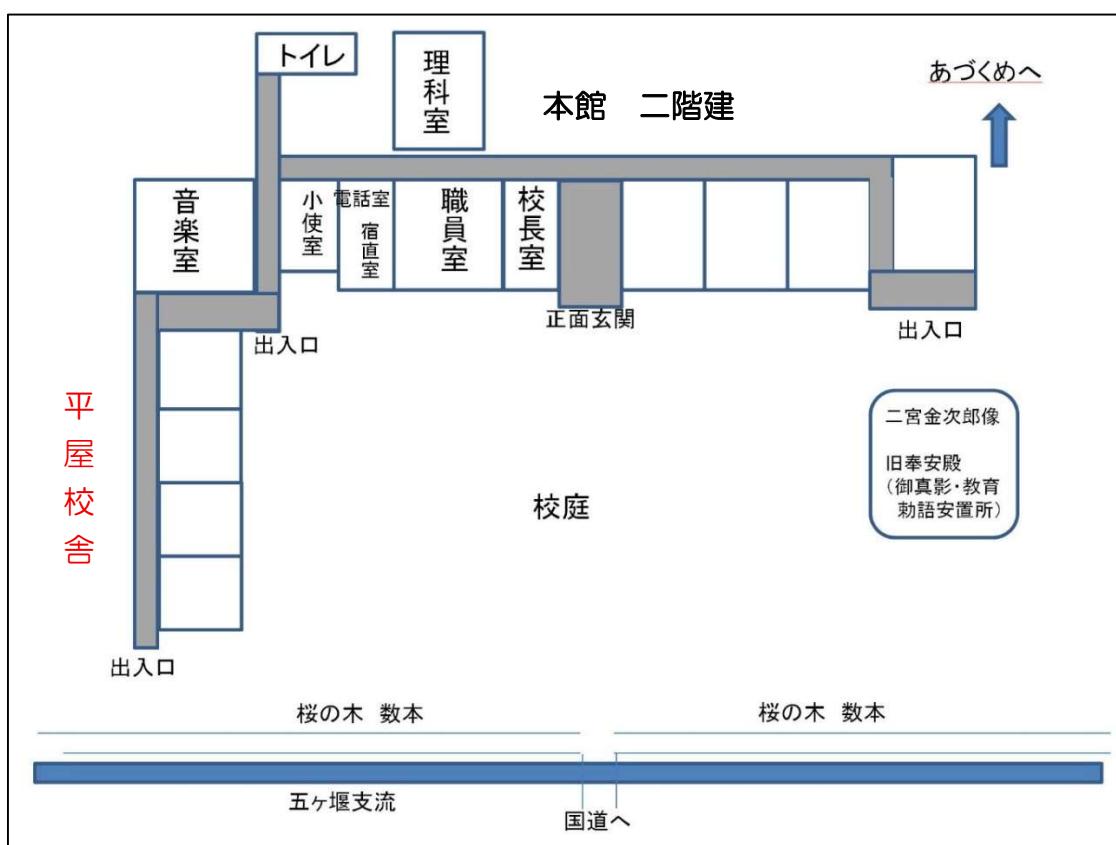
年 度	學級數	児童數	小學校費											
			戶	數	人	口	戶	數	人	口	戶	數	人	口
大正 二年	一五	八四九												
大正 三年	一六	八〇九												
大正 四年	一七	八六三												
大正 五年	一七	八五五												
大正 六年	一七	九〇三												
大正 七年	一七	九〇六												
大正 八年	一八	九五〇												
大正 九年	一九	九九九												
大正 十年	一九	一〇〇二												
大正 十一年	一九	一〇〇五												
大正 十二年	一九	一四、三三四												
大正 十三年	二一	一四、八八五												
大正 十四年	二二	七、四〇六												
大正 十五年	二二	九六三												
昭和 二年	二二	九三九												
昭和 三年	二二	九〇三												
昭和 四年	二二	九〇二												
昭和 五年	二三	九一四												
昭和 六年	一九	八九七												
昭和 七年	一九	八六五												
昭和 八年	一〇	九〇六												
昭和 九年	一〇	九三〇												
昭和 十年	一一	一六、五四三												

図5209 昭和22年当時の校舎



図5210 昭和28・9年当時の校舎平面図

(一杉勝 作成)



平屋校舎は低学年の教室で、卒業式や入学式などの大きな行事には教室間の仕切りを取り払い、講堂として使用した。学芸会が行われたこともあった。

図5211 夏休み中に平屋校舎を移動 昭和34年8月

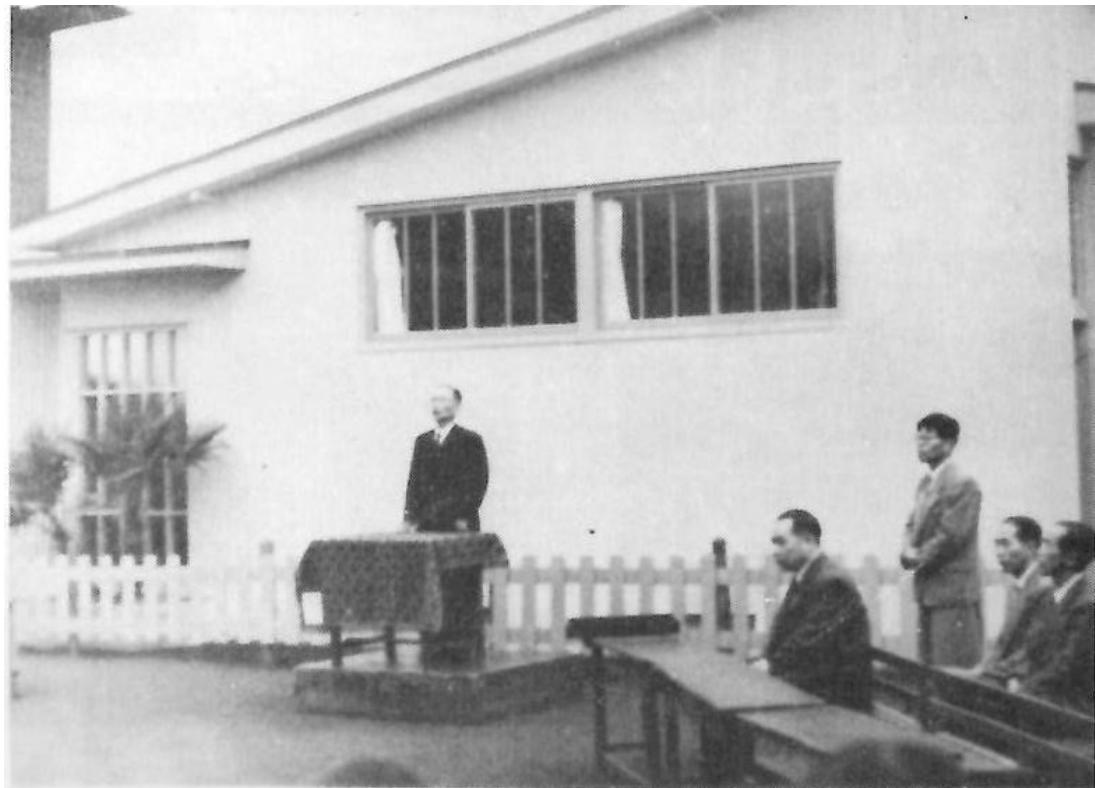


手狭な校庭を拡張するため、西側の平屋校舎を移動させ、L字型校舎をI字型校舎に。

図5212 I字型校舎が完成 昭和34年9月から使用



図5213 創立80周年記念図書館の落成式 昭和30年（1955）

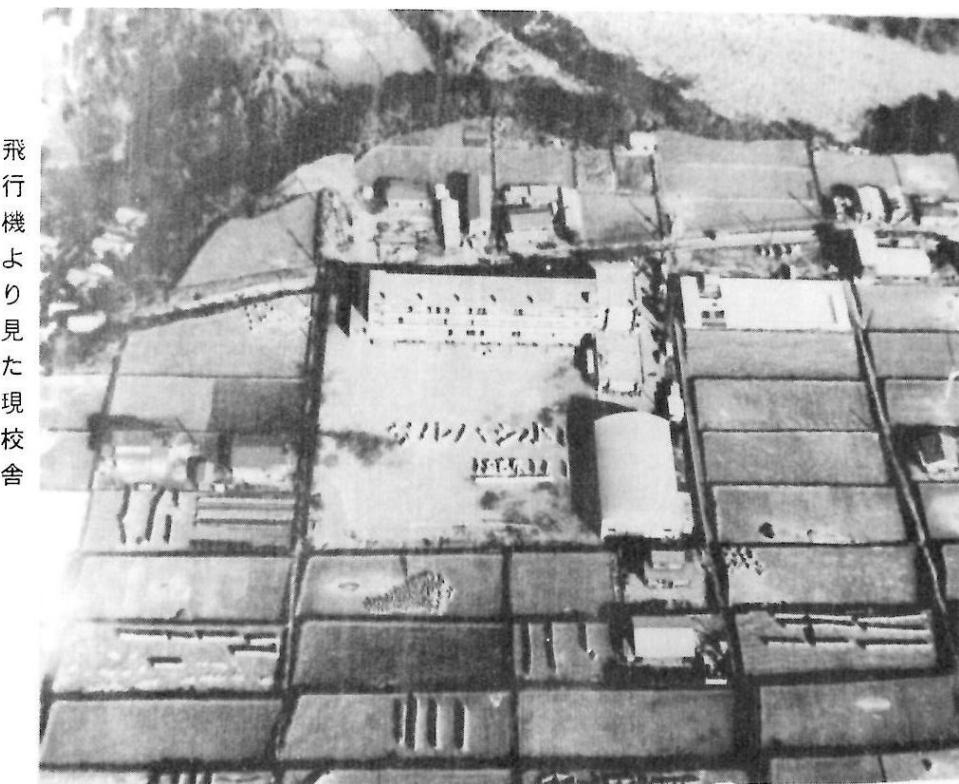


八十周年記念図書館落成

挨拶しているのは河村校長 加藤PTA会長・手塚教頭も見える。

6) 伊良原移転 昭和37年（1962）

5214 伊良原移転当時の航空写真



7) 学芸会 図5215

A : 紀元2600年 昭和15年



C : 学芸会 昭和30年



E : 勧進帳



B : 白猿座での学芸会 器楽合奏



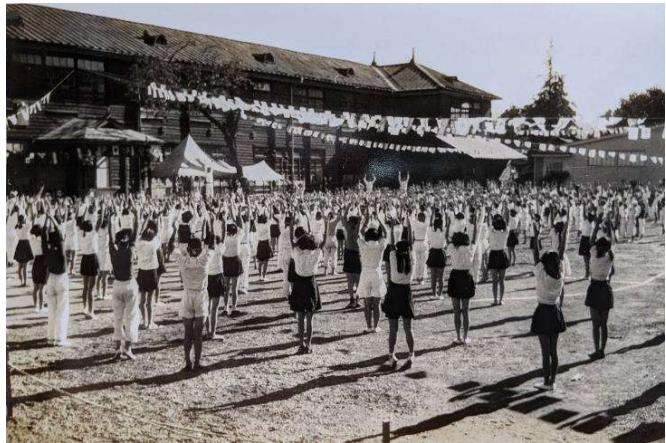
D : 卒業式も白猿座で 昭和30年



「勧進帳」の台本
中込先生の力作

8) 運動会

図5216 運総会スナップ 昭和30年 (1955)



第3章 猿橋中学校

戦後の学校教育法により、3年課程の義務制中学校が発足し、9ヶ年の義務教育制度が成立した。これにともない昭和22年4月、旧郡役所があった地に猿橋中学校が発足した。

図5301 昭和30年当時の校旗・校長 (昭和30年卒業アルバムより)



図5302 正面玄関前で卒業記念写真



図5303 増築に増築を重ねた校舎 最後方は4棟目の校舎 昭和37年当時

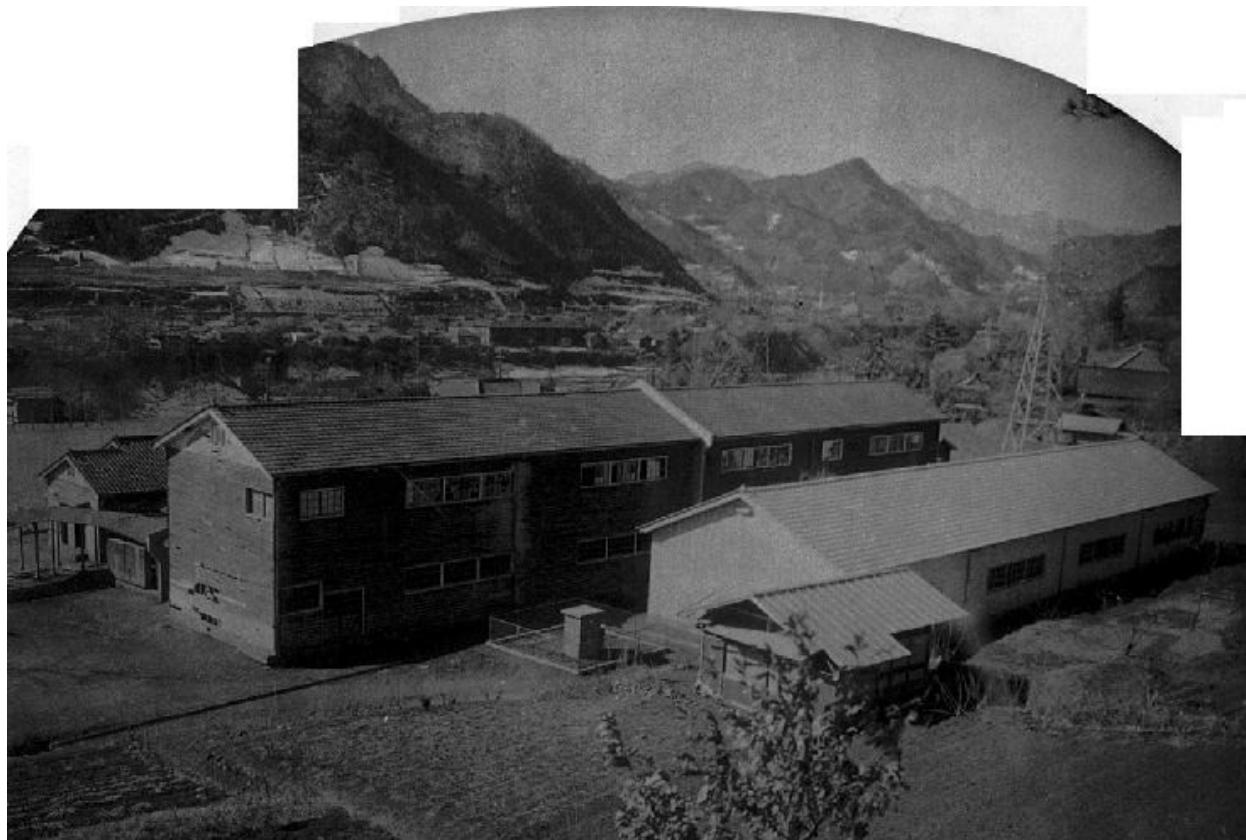
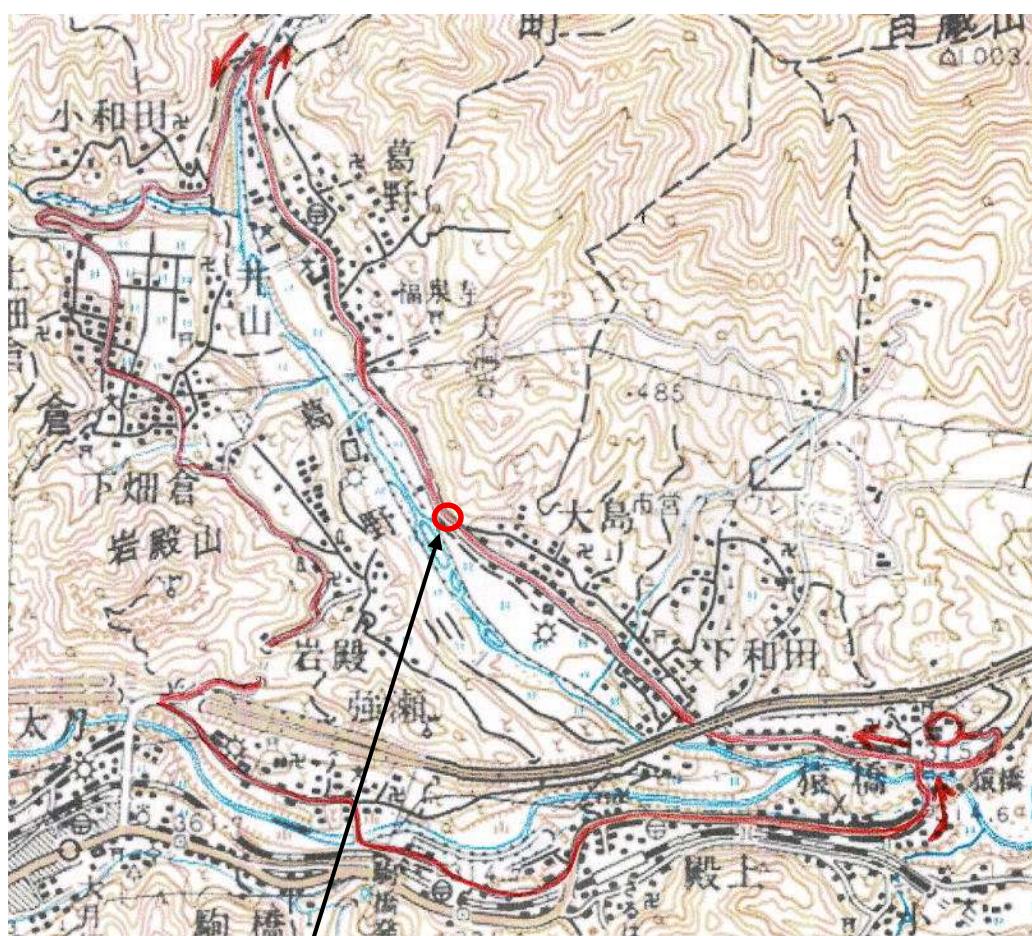
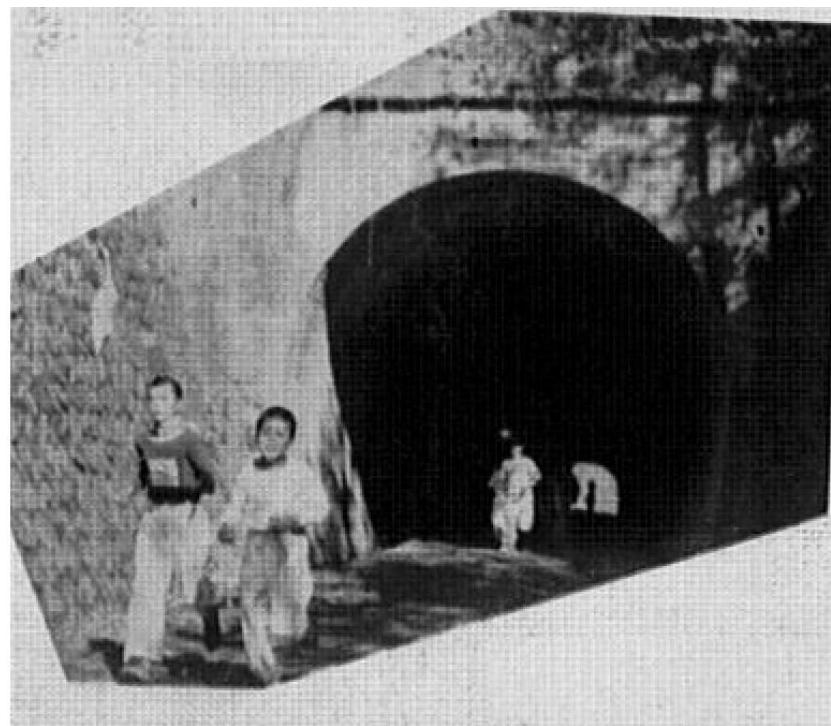


図5304 ロードレース



六本松

大島方面から見た六本松



猿橋中学の年間行事の中にロードレース（秋 10月）があった。

2・3年の生徒が一斉に（男子と女子は別だったか？）狭い校門を通って坂道を下り、七保方面への県道を走る。

六本松を過ぎ、葛野を越えて葛野川を渡り、畑倉を経由して岩殿山麓へ。

隧道を潜ると高月橋の手前で左に折れて強瀬（こはぜ）に入る。

桂川を渡り駒橋発電所から旧甲州街道を経由して、殿上から国道20号に出る。猿橋の町を通り中学校まで戻る全長約12km程の一周コースであった。

この行事もその後の昭和36・7年には車両通行量の増加等々に伴い廃止された。

第4章 白猿座

町の東南、線路の向こうに白猿座という劇場（芝居小屋）があった。田舎の町には珍しい二階建、両側に花道、廻り舞台を持つ本格的な劇場だった。

図5401 白猿座の所在地

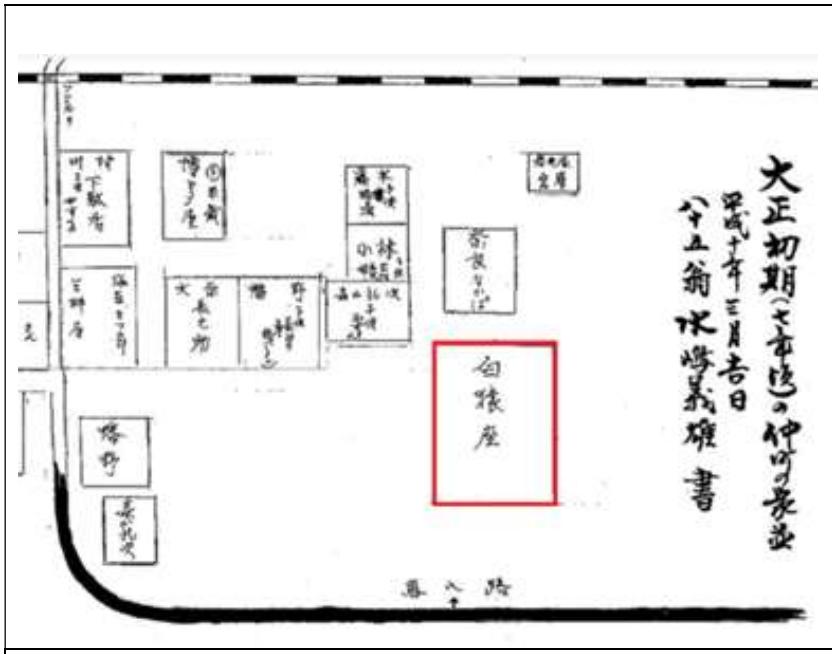


図5402 戦前の公図



大正期の水島地図（5401）では、所在地が大雜把であるが、昭和（戦前）の公図（5402）を見ると猿橋115番地であったことがわかる。

西側が正面入り口で、右（南）側は真渡川（小沢川）の崖の近くだった。

奈良貞一郎氏の話によれば、明治初期、現在の日之出屋本店付近に住んでいた奈良半左衛門が中心となって、東京新富町にあった新富座をモデルにして、猿橋の地に劇場を開設しようと計画され、間口10間、奥行12間、桟敷の両側に花道、回り舞台のある本格的な劇場が建設された。

昭和3年10月10日、株式会社に改組された。

資本金は7500円。

主な株主は奈良重威・仁科義男・大石庸一・花田規矩郎・中西健治・三木亀十郎・奈良寅吉・飯高林蔵などであった。

初代の代表取締役には第10代大原村村長だった奈良重威が就任した。

次頁「図5403」はその株券である。資本金一株50円、資本金7500円なので、150株が発行されたことになる。

図5403 白猿座劇場の株券

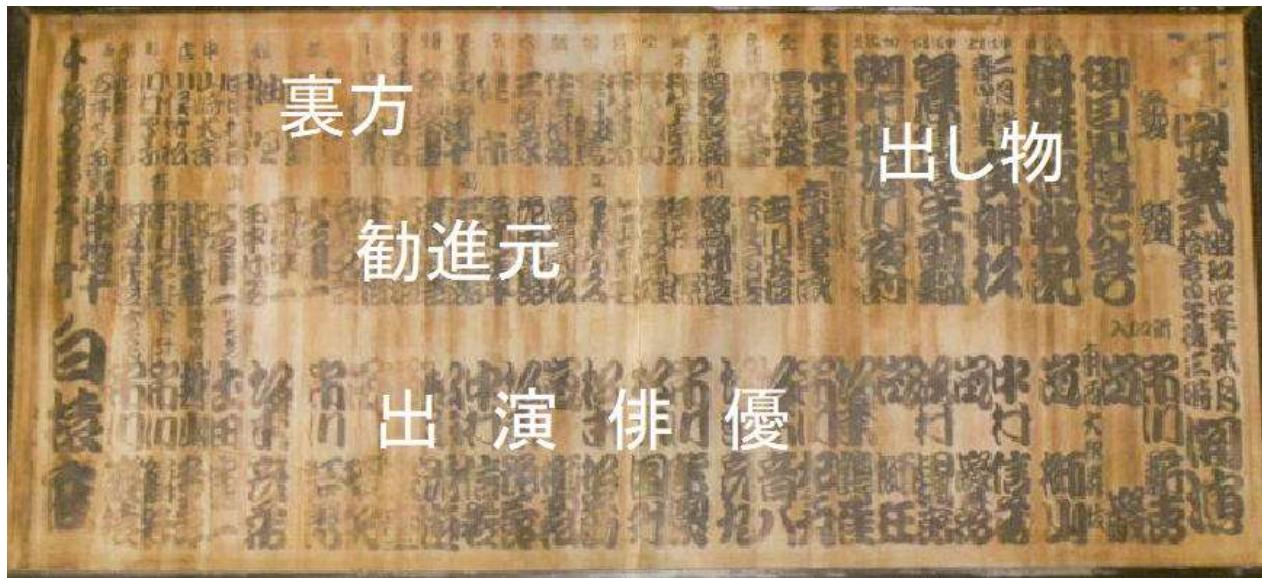
(森健次氏 提供)



新生「株式会社白猿座劇場」の開業は昭和4年（1929）2月11日、紀元節の祝日だった。その日の出し物・出演者・勧進元などを記した書き物が額に入れた状態で残っている。

図5404 開業式次第

(大月市郷土資料館蔵 田中清貴さん紹介)



これによると当日3時に開園とあり、出し物は

- ・御目見得だんまり（役者紹介の目的で一座総出で演じる一幕物）
- ・魁難波戦記（さきがけなにはせんき）
- ・二月堂春日の由来 良辨杉（ろうべんすぎ）
- ・菅原伝授手習鑑
- ・御所桜堀川夜討

などが上演された。出演者は

市川・嵐・中村・沢村・坂東・松本・・・などの役者が並んでいる。「東西大歌舞伎」とあるので上方の俳優も出演したのであろう。

出し物・出演者以外に勧進元（興行元・世話人）として、白猿座取締役会長の奈良重威を筆頭に出資者の名前が並んでいる。

このように華やかなスタートを切り、この劇場を本拠地にした大原長之助劇団（後に大原長之助・音羽琴水一座、関東一円や北海道まで巡業していた）の公演や、旅回り劇団などの興行が行われていたが、昭和恐慌そして太平洋戦争と苦難の時期に直面した。

戦後は経営が小俣興行から大月の内藤興行に移り、旅芝居や浪曲、歌謡ショー等の興行が行われた。

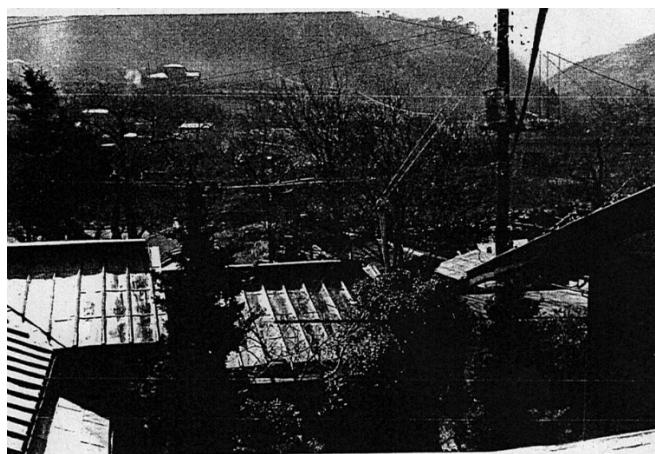
また、養蚕と絹織物が盛んだった地元の機織工場の女工さん達のレクレーションとして、よく芸能会を催したり、近隣の小学校の音楽発表会や猿橋小学校学芸会の会場として使われるようになった。

また、映写室が設けられて映画上映もできるようになったが、常設館として「橋映」が出来たため毎日の上映ではなく、特別興行や小中学校の課外教育の一貫としての臨時上映が行われる程度だった。しかし老朽化が進み、維持~~も~~難しくなり放置されたまま廃屋同然になっていた昭和47年12月25日失火により焼失した。

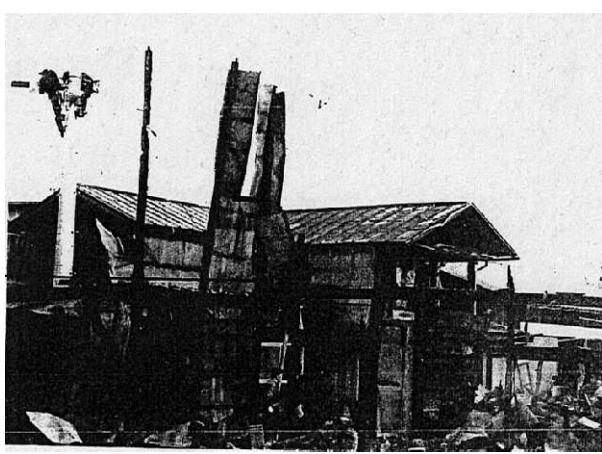
対岸の伊良原の住人の話によると、目の前にある建物の火事のようで、焼ける音も聞こえ、焚火にあたっているような熱さえ感じたという。

図5405 焼け跡の写真（大月消防署）

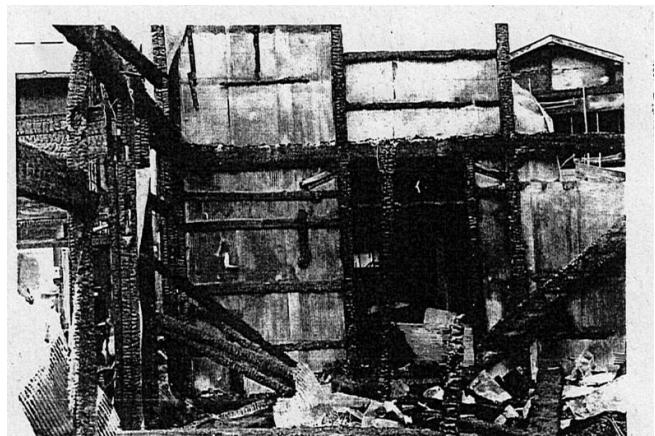
A：右手前 猿橋医院、遠景は伊良原



B：焼け残り（南東側から北西側を見る）



C：建物北西角に焼け残った柱



D：建物北西角に焼け残った部分

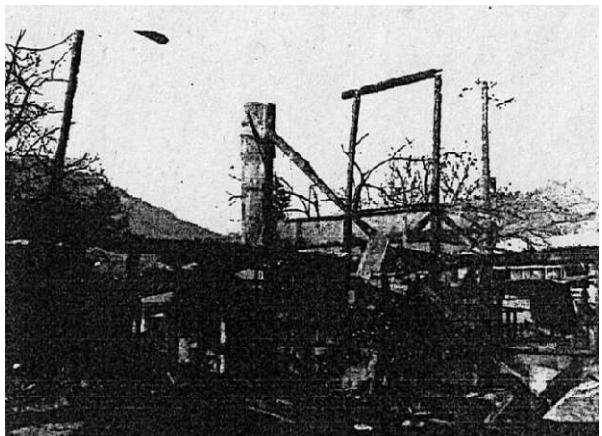
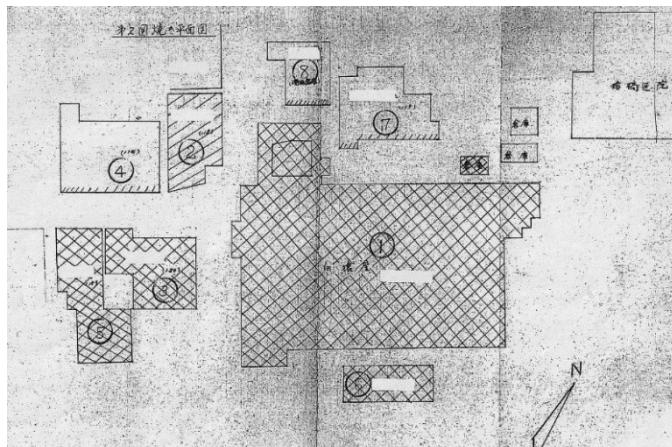


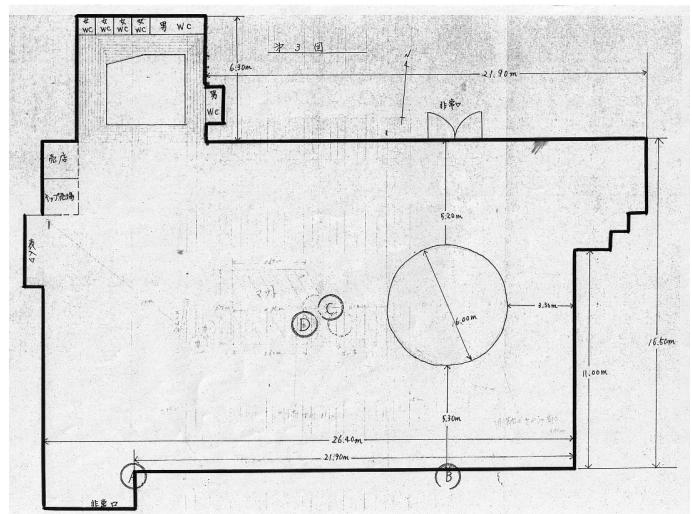
図5406 「焼き平面図」

大月消防署



近辺の民家も延焼した。

図5407 大月消防署の焼け跡検証図



「図5406・5407」を基に薄れた記憶から「ありし日の白猿座」の平面図を推定すると次のようになる。

図5408 推定平面図

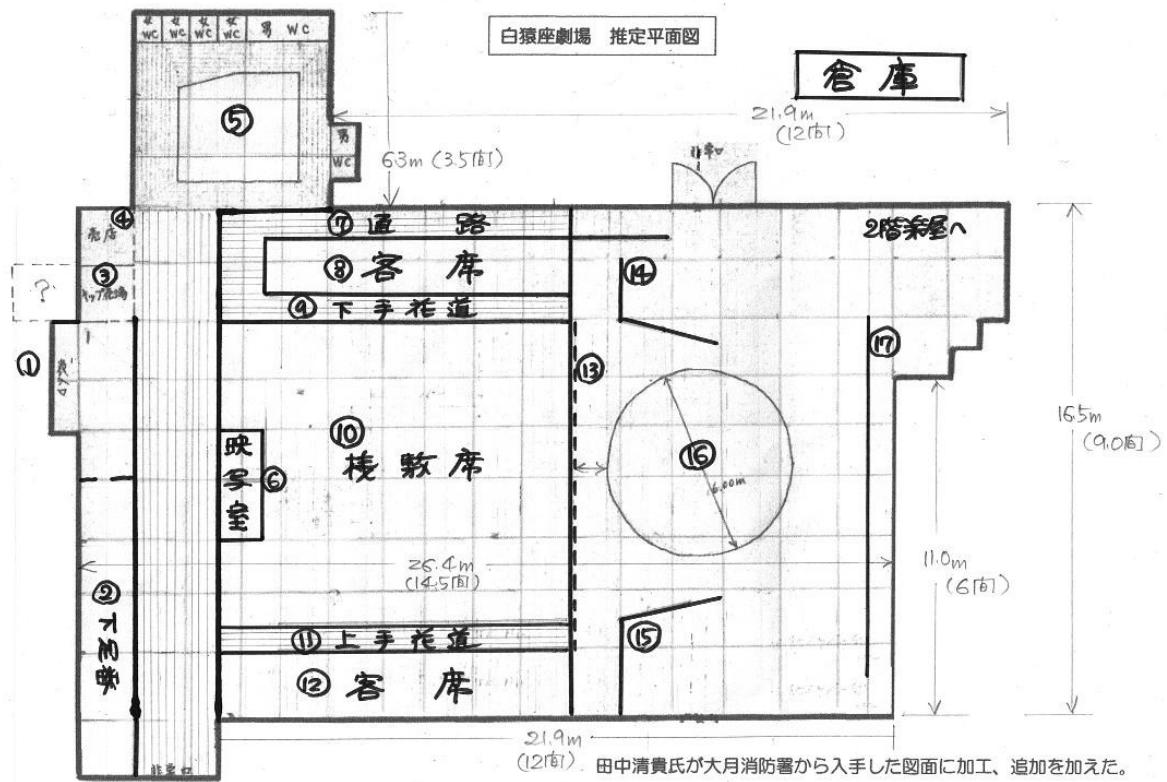


図5409 囲り舞台もあった本格的劇場での学芸会（勧進帳）



図5410 2枚の写真をA1で合成した舞台と客席の様子を推定



図5411 A1で再現した白猿座

下の写真から人物を除いた建物側面の想像図

⇒





正面 想像図



舞台から客席 想像図

第5章 橋映

「橋映」の写真・史料は残念ながら入手出来ていない。下は昭和27年の猿橋架け替えを記念したお祭りの記録映画から抽出したものである。 図5501 橋映



コラム 橋映の思い出

(一杉 勝)

猿橋にかつて常設映画館があった。キョウエイ（橋映）と呼ばれていた。

山崎分店の左隣り、地面がだいぶ低い所だったため、橋に通じる坂道から右の階段を数段降りた所に入口があった。

大月に「明月座」「エクラン座」のふたつの映画館を持つ内藤興行の経営だった。いつごろ開館したのか定かではないが、おそらく昭和20年代の後半だったろう。

大月の映画館と一つのフィルムを使って持ち回り上映、自転車での運搬のため、何かの事情で次のフィルムの到着が遅れると「しばらくお待ちください」というメッセージがしばしばあった。観客はフィルムの到着をおとなしく待った。

近在の村々からも観に来る客が多く大盛況だった。

東映・東宝・大映も、松竹も日活も、そして新東宝も、すべてごっちゃにしての3本立てだった。当時、甲府へ行くと、「甲府東映」「甲府東宝」のように系列別の映画館があり、猿橋はどこの映画も見られて便利だと思ったものである。時に洋画も上演された。「シェーン」「真昼の決闘」などの西部劇の名作も上映された。

町の方々に映画の宣伝ポスターが張り出され、ポスターの貼り場所を提供した家、店には「ビラ下」と称する入場料割引券が渡され、映画を観に行く時はこの「ビラ下」を貰って行く人が多かった。

中学校や小学校では映画館に行く事は原則禁止になっていたが、次第に「禁止」がゆるめられたようだ。裕次郎の「嵐を呼ぶ男」、東映オールスターの忠臣蔵などは大入り満員、すし詰め状態で観たものだ。

館内は木製のベンチが横に3~4列、縦に10列位だったか。多くても100人位の定員だった。スクリーンの横にトイレの入口があり、時によってはトイレの匂いが客席まで漂っていた。

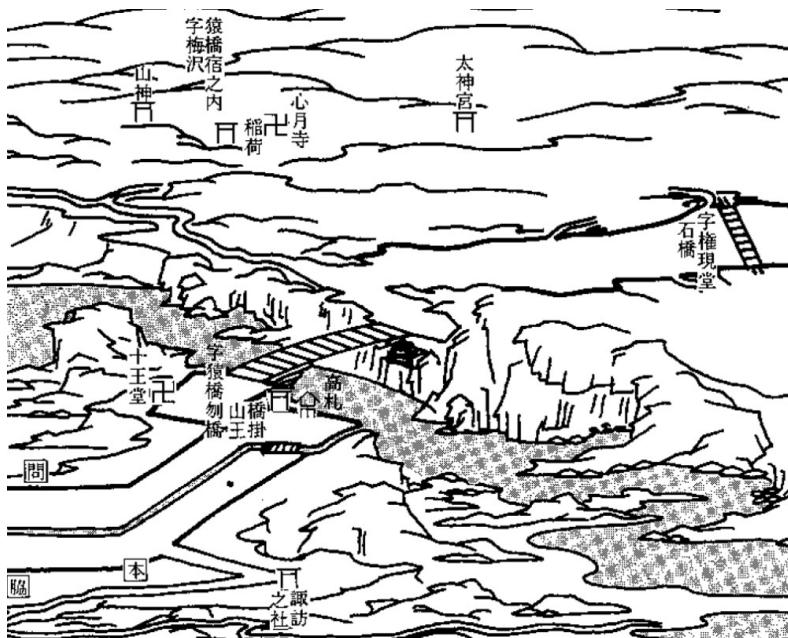
第6章 神社仏閣

1) 心月寺

心月寺は鎌倉時代後期、正安元年（1299）勧請と伝えられる禪宗建長寺派の寺院。

古くはさるはし橋畔南詰（下図十王堂あたり）にあったが、江戸時代に現在地（字梅沢）に移転したという。

図5601 甲州道中分間絵図



明治の初め、小学校や警察署・裁判所出張所などの専用庁舎が出来るまで、心月寺の本堂で仮スタートしたという記事が多い。

心月寺は猿橋の町場では唯一の「お寺」だったので、周辺の寺院に比べて規模が大きかった。以前は町から離れた静寂の地であったが、今は、後背地に中央高速道路が走り隔世の感がある。

図5602 心月寺本堂



図5603 参道



図5604 鐘楼と桜（絵葉書）



2) 出世太神宮

北都留郡誌に下のような記述があるが、「出世太神宮」という名は見られない。正式名称は「諏訪・春日神社」で、大正11年に三皇山神社と合併したとある。

「出世太神宮」という名称は後世の名か？

図5605 出世大神宮（北都留郡誌）

間六寸、梁二寸、氏子八十三戸、鳥居一基。	字切添無格社大神社及字梨木無格社三皇神社を合併す、祭日九月十、十一日、境内二百六十四坪（第一種、社殿四尺二八間）	山緒不詳、除地高六斗八升ありしこと甲斐國誌に見ゆ、大正十一年三月十八日縣指令學第四三三五號を以て舊猿橋	村社春日神社大原村猿橋字大猿橋	祭神建御名方命天兒屋根命
----------------------	--	---	-----------------	--------------

平成12年に拝殿を改築した時の「竣工の記」に、出世大神宮の由緒について次のように書かれている。

（この項は大月市郷土歴史館のHPより）

寛永年間、その日暮らしにも困る一人の若い浪人が、路銀も少なく猿橋の小社天照大神社に一夜の寝ぐらを求めました。

その夜、枕元に立った神様から「此の社崇敬あらば必ず立身出世あるべし」とお告げがあった。

それから浪人は江戸に出て神敬いよいよ厚く勤勉努力した結果、一介の浪人から旗本に取り立てられ大いに立身し、日光の東照宮の改築寛永13年（1636）に普請奉行となり、その後慶安年間に甲府城の城代（4千石）となり、さらに江戸幕府の中軸若年寄（5千石）格式2万石の大名まで出世したという。

その名は山口出雲守勘解由。

山口出雲守は「夢想に少しもたがわじ」と寛文3年（1663）に現在地（猿橋字切添1135-1）に神社本殿を新築し勧請した。（後略）

また、同書によると大正11年、社格を指定村社に昇格させるため、諏訪・春日神社の御神靈を出世太神宮に合祀した。

しかし、武鑑などの公式記録には「山口出雲守」の存在は確認できない。牛久1万石の大名山口家は確認できるが、出雲守は名乗っていない。

祭日は9月10・11日とあるが、昭和の時代は4月の春祭りが出世太神宮の祭典とされている。

図5606 出世大神宮（古い写真は入手出来ていない。）

拝殿

鳥居と階段



毎年、除夜の鐘を聞きながら多くの人が家族や友人達と参詣する。

図5607 氏子総代会（昭和35年）



3) 八幡神社（諏訪神社とも）

かつて松葉（今の市役所支所、公民館の辺り）にあった神社について、郡誌には次のように記述されている。9月に秋祭が行われる神社である。

村社：八幡神社 大原村猿橋字松葉。

祭神：薦田別命 由緒不詳 祭日4月14・15日。境内85坪（官有第一種）。

本殿：行6尺7寸 梁1丈1尺7寸。 拝殿：行4間半 梁4間

渡廊下：行九尺 梁九尺。 鳥居：1基。 宝蔵：行1間4尺 梁1間3尺。

氏子：21戸

なお、甲州道中分間絵図では、この神社を「諏訪之社」としている。（図5601参照）

図5608 大正時代の町並写真



図5609 公民館の傍らにある神社の名残

